

### 第1学年

学習内容	時間数	教科書該当頁	学習活動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動〕
家庭分野ガイダンス	1	[口絵] 1～3 1～17	■小学校の学習をふり返り、3学年間を見通しをもって学習に取り組もうとする。 ○内容A～Dの小学校の内容をふり返り、中学校3年間の学習の見通しを立てる。
A 家族・家庭と子どもの成長 —自分の成長と家族・家庭と地域	1. わたしの成長と家族 ①わたしの成長 ②わたしを支えてくれた家族や周囲の人びと	2	18～21 ■自分の成長や生活は家族や周囲の人びとに支えられていることに気づく。 ○家族など身近な人にインタビューをして、自分の幼いころをふり返る。
	2. わたしたちと家族・家庭と地域 ①家庭のはたらき ②家庭生活を支える仕事 ③わたしたちの家庭生活と地域	3	22～27 ■家庭や家族の基本的な機能とそれを支える家庭の内外における活動があることについて理解し、家庭生活が地域の人びととのつながりの中で成り立っていることを理解する。 ○家族に関する映像教材などの視聴を通して基本的な機能とそれを支える活動について知り、話し合う。 ☆グループで話し合った結果をクラス全体に発表させる形式をとってもよい。 ○地域の人びととのふれ合いについて話し合う。 ☆地域の行事以外に日常生活でのつながりや地域の施設などにも触れる。
B 食生活と自立 —資源や環境を考えた食生活	1. 健康と食生活 ①食事について考える ②生活のリズムと食事 ③栄養素のはたらきと食品 ④中学生に必要な栄養 ⑤食事の計画	5	66～87 (142～145) ■食事の役割や栄養素の種類とはたらき、中学生の栄養の特徴について理解する。 ○自分の食生活点検を行い課題を見出す。 ○食事の役割を知りよい食習慣について考える。 ○栄養素の種類とはたらきについて表にまとめる。 ☆いくつかの栄養素について検出実験を行い関心を高める。 ☆水分と食物繊維は中学校での新たな学習として扱う。 ■中学生の1日分の献立を立てることができる。 ○1食分の献立を活用して食品を食品群に分ける。 ☆給食のある地域では、献立を活用してもよい。 ○中学生の栄養的特徴を踏まえて、1日分の献立を立てる。 ☆自分の生活を振り返って、中学生の栄養的特徴を考えさせる。
	2. 食品の選択と保存 ①食品が口に入るまで ②生鮮食品の選び方 ③いろいろな加工食品 ④加工食品の表示 ⑤加工食品の選び方 ⑥保存のしかたを考える ⑦食品の安全と情報	4	88～101 ■食品の品質を見分け、用途に応じて選択することができる。 ○いくつかの生鮮食品や加工食品について鮮度や原産地、食品添加物の有無などの情報を収集し考えを発表する。 ☆状況に応じて予め調べさせたり、教師がいくつか準備したりする。 ○食品の表示やマークについて基礎的な知識を理解し、家庭で活用しようとする。 ☆食品安全基本法など食品の安全に関する情報について知らせる。
	3. 調理をしよう (資源や環境を考えて) ①調理の計画 ②調理の基本 ③肉の調理—調理時間を短縮して ④魚の調理—魚の鮮度の見分け方 ⑤野菜の調理—野菜を丸ごと使っ	12	102～133 ■安全や衛生に留意し、基礎的な日常食の調理ができる。 ○調理に必要な手順や時間を考え、環境に配慮した計画の立て方を理解する。 ○肉の調理上の性質を知る。 ○電子レンジ加熱のエネルギー削減効果を知る。 ○肉の調理をする。 ○魚の鮮度を見分ける。 ○魚の調理上の性質を知る。 ○魚の調理をする。 ○野菜を丸ごと使ったシチューをつくる。 ○材料を無駄なく使う方法を知り考える。
D 身近な消費生活と環境	1. 家庭生活と消費	1	206～209 ■自分や家族の消費生活について関心をもち、消費のあり方を考えている。 ○自分の生活に必要な物資やサービスについて考える。消費生活のしくみを知り、身の回りの生活の課題について考える。
	2. 商品の選択と購入 ①商品購入のプロセス ②生活情報の活用 ③商品の価格 ④販売方法と支払い方法	2	210～217 ■商品の選択と購入についてさまざまな条件を考えて選択と購入が適切にできる。 ○筆箱の中身を見て、自分の生活を振り返る。 ○商品選択のプロセスに従って必要なものの選択と購入ができるようにする。
	3. よりよい消費生活のために ①消費生活のトラブルを防ごう ②消費者の権利と責任 ③消費者を支えるしくみ	3	218～225 ■消費者の権利と責任を知り、トラブルを防いだりトラブルに対処したりすることができる。 ○消費者には、どんな責任がありそれはなぜかを事例を通して考え、話し合う。 ☆権利を理解させた上で考えさせる。 ○消費者基本法の趣旨を理解する。
	4. 環境に配慮した生活 ①環境への影響を考える ②エネルギー消費とCO <sub>2</sub> 排出を減らす ③水を節約し、排水の汚れを減らす ④環境への影響を考えた消費生活 ⑤持続可能な社会へ向けて	2	226～237 ■自分の生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した消費生活を工夫することができる。 ○資源やエネルギーの消費量について、1日の生活をふり返りチェックする。 ○家庭での資源とエネルギー消費量の削減計画を立て、実践する。

\* C 衣生活・住生活と自立「3生活を豊かにする物をつくる」を衣服の補修の技術と合わせて習得できるようにした指導計画です。  
[2 快適な住まい—2 安全な住まい]②災害への備え」などを重視して、「住」の実習として、地域安全マップをつくっています。  
教科書の流れにそって「3生活を豊かにする物をつくる」を「2 快適な住まい」の後に学習する場合は、製作例の選択肢が広がります。

### 第2学年

学習内容	時間数	教科書該当頁	学習活動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動〕
C 衣生活・住生活と自立 1 自分らしく着る・快適に着る—環境に配慮した衣生活	1. 日常着の活用 ①衣服のはたらき ②自分らしく目的に合わせた着方 ③衣服の活用と選び方	2	148～157 ■衣服と社会生活のかかわりや個性を生かす着用について考え工夫している。 ○衣服のはたらきと目的に応じた着用を考える。 ○コンピュータを使っているいろいろなデザインや柄・衣服の組み合わせなどを工夫する。 ○既製服の選び方の条件をあける。 ☆本当に必要かどうか、購入以外の方法がないかなど、学習の始めに計画的でむだのない衣生活についての視点を押さえる。 ○表示の種類と意味を理解する。
	2. 日常着の手入れ ①汚れと手入れ ②手入れと表示 ③いろいろな繊維 ④衣服の洗濯 ⑤衣服の補修とアイロンかけ	4	158～169 ■衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができる。 ○衣服の汚れの種類と落とし方について理解する(実験をするとよい)。 ○取り扱い表示の意味を理解する。 ○綿の繊維を紡ぐ実験を通して繊維の種類と特徴を知る。 ☆繊維は大切な資源であることを伝える。 ○補修やアイロンかけの方法を知る。
	3. 環境に配慮した衣生活	2	170～173 ■環境に配慮した洗濯や、着用の仕方、再利用などについて考える。 ○洗濯による環境への影響や衣服の着用の仕方による省エネルギーの実態を知る。 ☆データを用いて知らせる。 ○自分の生活に生かせることを考え、実現可能な環境への配慮を発表する。
C 衣生活・住生活と自立 3 生活を豊かにする物をつくる	1. わたしや家族の生活を豊かにする工夫 2. 布を用いた物の製作 ①製作の前に知っておこう ②製作して活用しよう	8	188～201 ■身近な布を用いて補修の技能を生かした小物の製作を通して、生活を豊かにする工夫ができる。 ○衣服の補修の技術を生かしてつくれる生活を豊かにする物や製作の計画を立てる。 ○ボタン・スナップつけなどの練習を兼ねてハットポトルホルダーやお弁当袋などを製作する。
	1. 住まいのはたらき ①住まいのさまざまな役割 ②共に住まう	2	174～179 ■自分の生活をふり返り、住まいのはたらきを考える【気候の特徴を生かした住まい方】。 ○自分の生活をふり返って、住まいのはたらきを考える。 ○家族が住まう空間としての住まいの機能を考える。 ☆住まいの建造物としてののはたらきと健康や心身の安らぎとしてののはたらきについて考えさせる。
	2. 安全な住まい ①住まいの安全対策 ②災害への備え (地域安全マップをつくらう)	6	180～183 ■安全な室内環境の整え方を知り、工夫できる【バリアフリー】。 ○幼児の目線や高齢者の立場に立った住まいについての映像教材を視聴して家庭内の危険な場所や状況を知り、改善策を考える。 ○身近な地域の危険箇所や状況について調べる。 ○身近な地域を調べて地域安全マップをつくる(地域の高齢者施設や保育所等に活用していただいてもよい)。
B 衣生活と自立 —食生活の課題と地域の食文化	3. 快適な住まい ①室内の空気調節 ②住まいと音	2	184～187 ■快適な室内環境の整え方を知り、工夫できる【換気の仕方・通風の工夫】。 ○室内の空気や音の状況を調べる。 ○汚染や生活騒音による体への影響などを知り、効果的な対策を考える。 ○防音パネルによる実験を行い効果を体感する。
	4. 地域の食材と食文化 ①地域の食材と郷土料理 地域の食材を使った調理 ②受け継がれる食文化 ③地域と世界へ目を向けて	9	134～141 ■地域の食材を生かした日常食の調理を通して地域の食文化を知り、食生活をよりよくしようとする。 ○地域の食材と郷土料理について調べる。 ○地域の食材について調べ、郷土食をつくる。 ☆気候風土の特徴と食材や調理法の特徴の関連を考えさせる。 ○簡単な行事食をつくる。 ○地産地消について知り、考える。 ○日本の食料事情を知り、これから食生活の課題を考える。 ○調べたり実習したりしたことを学習記録や実習記録にまとめる。

### 第3学年

学習内容	時間数	教科書該当頁	学習活動 〔■この項の学習課題／○生徒の活動、☆教師の活動〕
A 家族・家庭と子どもの成長 —幼児の成長	3. 幼児の生活と遊び ①幼児期ってどんな時代 ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④子どもの成長と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える 幼児と遊ぶおもちゃづくり	8	28～47 ■幼児の発達や生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 ○自分の幼い頃をふり返って、幼児の生活や発達の特徴について関心をもつ。 ○幼児の体と中学生の体を比較し、幼児の特徴や安全のために気をつけなければいけないことなどを調べる。 ○幼児のさまざまな表情の写真を見て心の様子を予想する。 ☆幼児の心の成長の様子について説明する。 ○幼児の発達を支える家族の役割を考え理解する。 ☆生活習慣の確立のための家族や地域の役割についてもふれる。 ○幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ○身近な素材やリサイクル製品などを活用して心身の発達に応じた遊具を製作する。
	4. 幼児とのふれ合い ①ふれ合い体験の前に ②ふれ合い体験をする ③ふれ合い体験をふり返る	6	48～55 ■幼児とのふれ合い体験において、課題をもって取り組み、かかわり方が工夫できる。 ○ふれ合い体験の心構えと準備をする。 ○幼児の発達や生活の特徴の学習を生かして、発達段階に適した遊びを工夫する。 ☆保護者や児童館の方にインタビューするなど、情報収集の仕方を提示する。 ○課題に対して工夫したことによる幼児の反応や成果、問題点などをレポートや新聞にまとめて発表する。
A 家族・家庭と子どもの成長 —これからのわたしと家族	5. これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係	2	56～65 ■これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくするために実践できることを考える。 ○事例の家族について課題を見つけ、ロールプレイングを通して家族関係をよりよくする方法について考え工夫する。 ☆グループで家族関係をよりよくする方法を検討させてから実施する。 ○将来に向けて変化する家族関係について考え、これからの自分と家族のかかわりについて目標を立てる。
まとめ		1.5	3年間のまとめ

週(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年 35時間	学習内容 家庭分野ガイダンス	A 家族・家庭と子どもの成長						B 食生活と自立												D 身近な消費生活と環境															
		1. わたしの成長と家族		2. わたしたちと家族・家族と地域		1. 健康と食生活			2. 食品の選択と保存			3. 調理をしよう						1. 家庭生活と消費	2. 商品の選択と購入		3. よりよい消費生活のために			4. 環境に配慮した生活											
		① わたしの成長 ② わたしを支えてくれた家族や周囲の人ひと		① 家庭生活を支える仕事 ② わたしたちの家庭生活と地域 ③ わたしたちの家庭生活と地域		① 食事について考える ② 生活のリズムと食事 ③ 栄養素のはたらきと食品 ④ 中学生に必要な栄養 ⑤ 食事の計画			① 食品が口に入るまで ② 生鮮食品の選び方 ③ いろいろな加工食品 ④ 加工食品の表示 ⑤ 加工食品の選び方 ⑥ 保存のしかたを考える ⑦ 食品の安全と情報			① 調理の計画 ② 調理の基本 ③ 肉の調理―調理時間を短縮して ④ 魚の調理―魚の鮮度の見分け方 ⑤ 野菜の調理―野菜を丸ごと使って						① 商品購入のプロセス ② 生活情報の活用 ③ 商品の価格 ④ 販売方法と支払い方法	① 消費生活のトラブルを防ごう ② 消費者の権利と責任 ③ 消費者を支えるしくみ		① 環境への影響を考える ② エネルギー消費とCO <sub>2</sub> 排出を減らす ③ 水を節約し、排水の汚れを減らす ④ 環境への影響を考え消費生活			⑤ 持続可能な社会へ向けて ⑥ 環境への影響を考え消費生活											
		1		2		3			5			4			12						1	2		3			2								
授業時数	1		2		3			5			4			12						1	2		3			2									
学習指導要領	A (1)		A (2)		B (1), (2) イ			B (2) ア, ウ			B (3) ア, (2) ウ, (3) ア, D (2)						D(1)ア	D (1) イ		D (1) ア, (2)															
2年 35時間	学習内容	C 衣生活・住生活と自立												B 食生活と自立																					
		1 自分らしく着る・快適に着る			3 生活を豊かにする物をつくる*			2 快適に住まう**			1. 住まいのほたらき				2. 安全な住まい		3. 快適な住まい	4. 地域の食材と食文化																	
		1. 日常着の活用	2. 日常着の手入れ		3. 環境に配慮した衣生活	1. わたしや家族の生活を豊かにする工夫	2. 布を用いた物の製作		1. 住まいのほたらき	2. 安全な住まい		3. 快適な住まい	① 地域の食材と食文化 ② 受け継がれる食文化 ③ 地域と世界へ目を向けて																						
		① 衣服のはたらき ② 自分らしく目的に合わせた着方 ③ 衣服の活用と選び方	① 汚れと手入れ ② 手入れと表示 ③ 衣服の洗濯 ④ 衣服の補修とアイロンかけ ⑤ いろいろな繊維		① 環境に配慮した衣生活	① わたしや家族の生活を豊かにする工夫	① 製作の前に知っておこう ② 製作して活用しよう		① 住まいのほたらき ② 共に住まう	① 住まいの安全対策 ② 災害への備え ③ 地域安全マップをつくろう		① 住まいと音 ② 住まいと音 ③ 室内の空気調節	① 地域の食材と食文化 ② 受け継がれる食文化 ③ 地域と世界へ目を向けて																						
授業時数	2	4		2	8			2	6		2	9																							
学習指導要領	C (1), D (2)			C (3) ア, D (2)			C (2)	C (3) イ【生活の課題と実践】		C (2)	B (3) イ, ウ【生活の課題と実践】、D (2)																								
3年 17・5時間	学習内容	A 家族・家庭と子どもの成長						A 家族・家庭と子どもの成長		3年間のまとめ	1.5																								
		3. 幼児の生活と遊び			4. 幼児とのふれ合い			5. これからのわたしと家族																											
		① 幼児期ってどんな時代？ ② 幼児の体の発達 ③ 幼児の心の発達 ④ 子どもの成長と家族の役割 ⑤ 子どもの成長と地域 ⑥ 幼児の遊びと発達 ⑦ 幼児の遊びを支える ⑧ 幼児と遊ぶおもちゃづくり			① ふれ合い体験をする ② ふれ合い体験をふり返る ③ ふれ合い体験をふり返る			① 中学生と家族とのかわり ② これからのわたしと家族との関係																											
		8			6			2																											
授業時数	8			6			2	1.5																											
学習指導要領	A (3) ア, イ			A (3) ウ, エ【生活の課題と実践】、D (2)			A (2)	全																											

・この年間指導計画例は、開隆堂の新教科書の配列・構成に対応しています(\*と\*\*の順序は入れ替えてあります)。授業時数などは、参考としていただき、各校の実情に合わせて組みかえてご活用ください。

・家庭生活と消費・環境との関連を意識し、環境に配慮した消費生活をめざす観点から、「D 身近な消費生活と環境」と「B 食生活と自立」及び「C 衣生活・住生活と自立」との連携を図った例です。

・新教科書の巻末(p.238～253)に掲載している「生活の課題と実践」は、1又は2事項を選択して実施できるように、A, B, Cのそれぞれに配置してあります。  
なお、生活の課題と実践として選択しなかった事項は、基礎的・基本的な学習内容に振り替えて実施することを想定しています。  
〔生活の課題と実践〕の実践部分は、この授業時数の外数として扱うこともできます。)

・この年間指導計画例の具体的な学習指導案は裏面に掲載しています。